



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 372  
March  
2024

## トピックス

### 関係機関との協力推進

JICA課題別研修「総合防災」

### ADRC客員研究員レポート

📌 ソンカム・ポンマハサイ (ラオス)

📌 タンチャノック・ナンタティクーン (タイ)

### 国際会議への参加

第56回台風委員会への参加

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
https://www.adrc.asia

© ADRC 2024

### ●関係機関との協力推進

#### JICA課題別研修「総合防災」

アジア防災センター（ADRC）は、2023年12月19日から2024年2月21日にかけて、JICA課題別研修「総合防災」コースをJICA関西との協力により実施しました。アルジェリア、バングラデシュ、ブラジル、インドネシア、パキスタン、スリランカの6か国から6名の防災担当行政官が参加し、災害対策の推進に向けた地方防災計画策定・実践の手法について学びました。

研修は遠隔研修と来日研修によるハイブリッド形式で行われました。約6週間の来日研修では、兵庫県、大阪府、京都府、熊本県、広島県での防災関連機関の訪問や現場視察、講義などを通じて、日本の災害対策を学びました。また、災害対策を推進するための各国の予算状況や組織間連携について意見交換を行いました。最終日には研修を通じて作成した各国の地方防災計画案を発表しました。

本研修実施にあたり、ご協力いただいた各関係機関のご担当者、講師の皆様には厚く御礼申し上げます。



木津川水門の視察（大阪府）

### ●ADRC客員研究員レポート

#### ソンカム・ポンマハサイ（ラオス）

皆さまこんにちは。私はラオスから来ましたソンカム・ポンマハサイと申します。私の出身国のラオスは、中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムと国境を接する東南アジアの内陸国です。私は、2010年にラオス国立大学で環境管理コースの学士号を取得しました。

現在、ラオス労働福祉省防災課副局長として働いています。私の主な仕事は、災害被災者、貧しい人々、恵まれない人々、特別な支援が必要な子どもたち、人身売買の被害者の支援と救済を行うことです。また私の部署

## 続き

は、リスク情報、リスクマップを収集し、災害サイトを準備するために関係者と調整を行うこともあり、中央および地方における防災の国家戦略および行動計画の作成、災害データベースシステムの開発、DRRの実施の中心的な役割を担っています。

今回、アジア防災センターの客員研究員への参加の機会をいただき、大変嬉しく思っています。本プログラムに参加することに常に興味を持っていました。また、日本は災害リスク管理に関して最も優れたシステムを有していることから、住民主体の災害リスク管理に関する知識を得て、経験を積みたいと思っています。日本で学べる経験は、ラオスにおける私の仕事をより効果的に改善するために非常に重要だと感じております。

最後に、すべての関係者の方々、特にこの重要な客員研究員プログラムに参加するための資金援助と機会を与えてくださった日本政府の方々から感謝いたします。

ありがとうございます！



## タンチャノック・ナンタティクーン (タイ)



初めまして。私はタイから来ましたタンチャノック・ナンタティクーンと申します（ニックネームはアンプです）。2015年からタイの内務省減災局（DDPM）で計画・政策アナリストとして働いています。タイでは、カセサート大学、チュラロンコン大学、タイ商工会議所大学でそれぞれ発達心理学、法学、日本語の学士号を取得しました。また、シラパコーン大学において、公共・民間経営の修士号を取得しました。

このような私の経歴は、災害分野とはあまり関係ありませんが、災害や気候変動のリスクや影響が現実のものとなり、私たちの生活にますます身近なものになってきていることを実感しています。皆さんご存知の通り、2004年12月に発生したインド洋大津波において、タイは今世紀になって初めて大規模な津波を経験しました。この災害において、タイでは死者5,400人以上、負傷者8,000人以上、行方不明者3,000人以上の被害が出ました。タイは非常に平和な土地にあり、大規模な自然災害などなかったように思えますが、インド洋大津波によって、災害はどこでも起こりうるということが証明されました。また、2014年にはタイ北部において、マグニチュード6.2という観測史上最強の地震が発生しました。この災害においては、道路や建物に深刻な損害が生じ、たくさんの古い家屋が倒壊しました。実は、タイでこのような地震が起こるとはかなり衝撃的なことでした。タイ国内には16の活断層があり、いつか陸域で地震が起きるかもしれないという恐れがあります。私の家も、2011年の大洪水で1カ月近く浸水し、多くの大切なものを失いました。私たちは近年の地球温暖化の問題について知っており、無計画な都市化や森林伐採などがリスクを増大させ、注意が必要であるかを知っています。私たちはいまだに目を閉じ、経済的なことを第一に考えているのは不都合な真実です。私は在学中に、私たちの生活と自然を両立させ、レジリエンスを生み出す答えのひとつである「充足経済（セタギット・ポーピアン）」の考え方を学びました。「より良く」、「より安く」、「より早く」、「より安全に」というコンセプトは、ビルド・バック・ベター（Build Back Better）に似ていてとても好きです。

## 続き

DDPMに入局してからは、国際協力課に勤務しています。ここでの仕事は、防災に関連する様々なプロジェクトの支援や、国連、ASEAN、タイや他の加盟国の大使館を含む国際機関との協力、国際会議やワークショップへの参加などです。また、私は学ぶことと自己啓発が大好きです。多くの国の知識や経験から学ぶことは、本当に素晴らしいことだと感じています。日本は間違いなく、災害とともに生きることのお手本です。人々の規律、安全意識、構造的・非構造的対策における防災への取り組み、そしてレジリエントな復興が、日本におけるレジリエンス構築の成功の鍵であると考えています。防災や災害への備えについて、人々に啓蒙し続けることはとても大切で、災害や気候変動に対するレジリエンスを達成するための行動は、私たちの考え方に関わっていると感じます。

今回の客員研究員プログラムは、防災について学ぶために多くの組織やコミュニティを訪問するだけでなく、日本の文化や生活様式を知ることができていて、私に貴重な経験をもたらしてくれました。さらに、タウンウォッチングや、防災イベントである「イザ!カエルキャラバン!」にも参加することができとても印象的でした。このような機会を与えてくださった日本政府とタイ政府、ADRCのスタッフの皆さまに心から感謝いたします。

本当にありがとうございます。

## ●国際会議への参加

### 第56回台風委員会への参加

新型コロナウイルスの世界的大流行後、初の対面会合となる台風委員会の第56回台風委員会(TC-56)が、2024年2月27日から3月1日まで、マレーシアのクアラルンプールにあるスイスガーデンホテル・ブキッピンタンで開催されました。台風委員会は、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)と世界気象機関(WMO)の後援の下、マレーシア気象局の主催で開催されました。

第56回会合では、2023年の作業計画の進捗状況をレビューし、2024年以降に実施される活動を、その実施に必要な支援とともに計画しました。セッションはまた、更新された戦略計画2022-2026の実施など、戦略的・開発的な問題についても取り上げました。

ADRCは、各国における早期警戒システムや災害情報共有の推進のために、準天頂衛星システムとGLIDE番号の活用促進することを提案しました。防災ワーキンググループ(WGDRR)が2024年の作業計画(AOPs)にGLIDEを含めていることから、多くの関心が寄せられました。



TC-65の参加者

## 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。